

# た よ り



〒518-0814 伊賀市上友生785番地

TEL&FAX; 0595 (21) 8839

URL:<http://www.iga.ed.jp/igaken>

E-mail:[iga-ken@iga.ed.jp](mailto:iga-ken@iga.ed.jp)

## 伊賀市教育研究センター運営委員会開催♪

5月2日(月)、令和4年度第1回伊賀市教育研究センター運営委員会を開催しました。

学校教育課長、校長代表①(教研会長)、教頭代表①(教研副会長)、教職員代表②(教研副会長・理事)の方々に出席いただき、本年度の業務や事業計画、ふれあい教室の状況などについてご協議をいただきました。

協議の中で、以下のような質問や意見が出されました。



- ・オンライン研修の実態はどうか。
- ・不登校の児童生徒の状況や実態はどうか。
- ・若い教職員が研修講座の受講を楽しみにしている。希望する教職員も多い。希望者が全員受講できる体制づくり、わかりやすい申込方法などよろしくお願ひしたい。
- ・昨年度、zoomによる研修も慣れてきて混乱することなくできていた。対面でやった方がいい講座もあるので対面による研修講座も大事にしたい。

研修講座については、「昨年度予定していた34講座のうち30講座を実施することができたこと」「実施できた研修講座では、従来のような集合研修(16講座)、当センターに受講者が集まり講師とのzoomによる研修(6講座)、各学校・園でのzoomによる研修(8講座)であったこと」などをお伝えしました。また、教職員の研修機会を確保することを大前提とし、実施方法を模索しながらコロナ禍での新たな研修スタイルの確立に向けて取り組んできたことについてもお話をさせていただきました。今年度も対面による研修講座の実施を基本とし、新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインも併用しながら、教職員の学びの保障につなげていきたいと考えています。

参加申込については、現在、市教委へ報告する場合と当センターへ報告する場合がありますが、学校・園にとって混乱することのないように、今後「研修講座については教研センターへ申し込む」形に統一していきたいと考えています。

「若い教職員が研修講座の受講を楽しみにしている」という声を聞かせていただき、大変ありがたく思いました。受講希望の多い講座につきましては、ハイトピア伊賀などに会場を変更し、より多くの皆さんが参加できるようにしてまいります。

不登校の児童生徒の実態については、ふれあい教室職員より、「子どもが減っているのに不登校の子どもたちが増えている。それぞれしんどさ(家庭、特性、学力など)がある。

また、生活の乱れも気になる。通級生については4月から学校へ復帰した子もいるし、4月から新たにきた子も多い。」という状況をお伝えしました。日頃より学校とふれあい教室が連携・共有を図りながら取り組んでいます。出欠の状況や子どもの様子について連携をさらに強化していきたいと話されました。

5名の運営委員の皆様には、一年間お世話をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

## 2022年度伊賀市研究指定校研究発表会について♪

### 研究指定校の実践から大きな学びを♪

#### ○成和西小学校・・・6月24日(金)

- ①研究主題：協同的な学びが支える、安心して学ぶことができる学校づくり  
～ICT機器の効果的な活用による深い学びの創造を目指して～
- ②「2021研究のまとめから」【キーワード】
  - ・子どもの学ぶ意欲を高め、学習の基礎基本や規律を定着させ、安心して学ぶことができる授業づくり…「学びのスタンダード」「教材研究」「研究授業」
  - ・一人1台パソコンの効果的な活用…知識を礎としながら、情報から何が大切かを主体的に判断し、自ら問いを立てて協同的に学ぶ中で、新しい価値観を生み出す
  - ・研修組織の見直し…子どもの課題に即した「プロジェクト」の立ち上げ

#### ○緑ヶ丘中学校・・・10月27日(木)

- ①研究主題：タブレット端末を活用して、主体的・対話的で深い学びを実現するために  
～「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善～
- ②「2021研究のまとめから」【キーワード】
  - ・個々の子どもたちの状況を客観的・継続的に把握し、教育データを利活用して効果的な学びの支援
  - ・知識・技能の定着を助けるためにデジタル教材の活用
  - ・ICTを活用した学習活動による指導力の向上
  - ・「条件を満たして説明する力・言葉や図を用いて説明する力が低い」を克服するためにタブレット端末を有効活用、自分の行動や考え方を振り返る「見つメッセージ」による取組

※昨年度の「職場教育研究 研究集録」の中から研究のキーワードになると思うものを②に掲載しました。発表に向けどのような具体的実践が積み上げられるかとても楽しみです♪

※昨年度から導入された「一人1台端末」。「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにどう活用していくか具体的実践による検証が求められています。そういった意味でも両校の研究発表会は大変意義深いものになると思っています。



雑感：先日、子どもたちの安全確保のために全小中学校で「保護者の迎え」となりました。学校では突然の対応でしたが、「慌たしい中でも職員が適切に動き、混乱のない対応ができた」という校長先生の声を聞かせていただきました。日頃よりどう危機管理体制が取れているか問われる機会でもありました。今後、様々な対応が求められる機会があると思いますが、管理職がリーダーシップを取りながら適切に対応できる学校体制が構築できているかが大きいと思います。その校長先生は「教頭や学年主任がリーダーシップを発揮し、全教職員が協働できるのが本校の強みです。」とも話されました。職員を信頼する思いや、うちの職員の力はすごいぞー！というメッセージが響いてきました。